

奈良県の地震

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

【奈良県地震概況】

【地震一口メモ】

南海トラフ地震と南海トラフ地震臨時情報について

「奈良県の地震」は、奈良地方気象台における地震調査の一環として県内の地震活動状況を的確に把握し、きめ細かい防災対策に資するため1989年1月より月1回発行しています。「奈良県の地震」は、上記の項目で構成し、適宜地震解説資料や用語解説等を掲載します。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体、及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

※この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

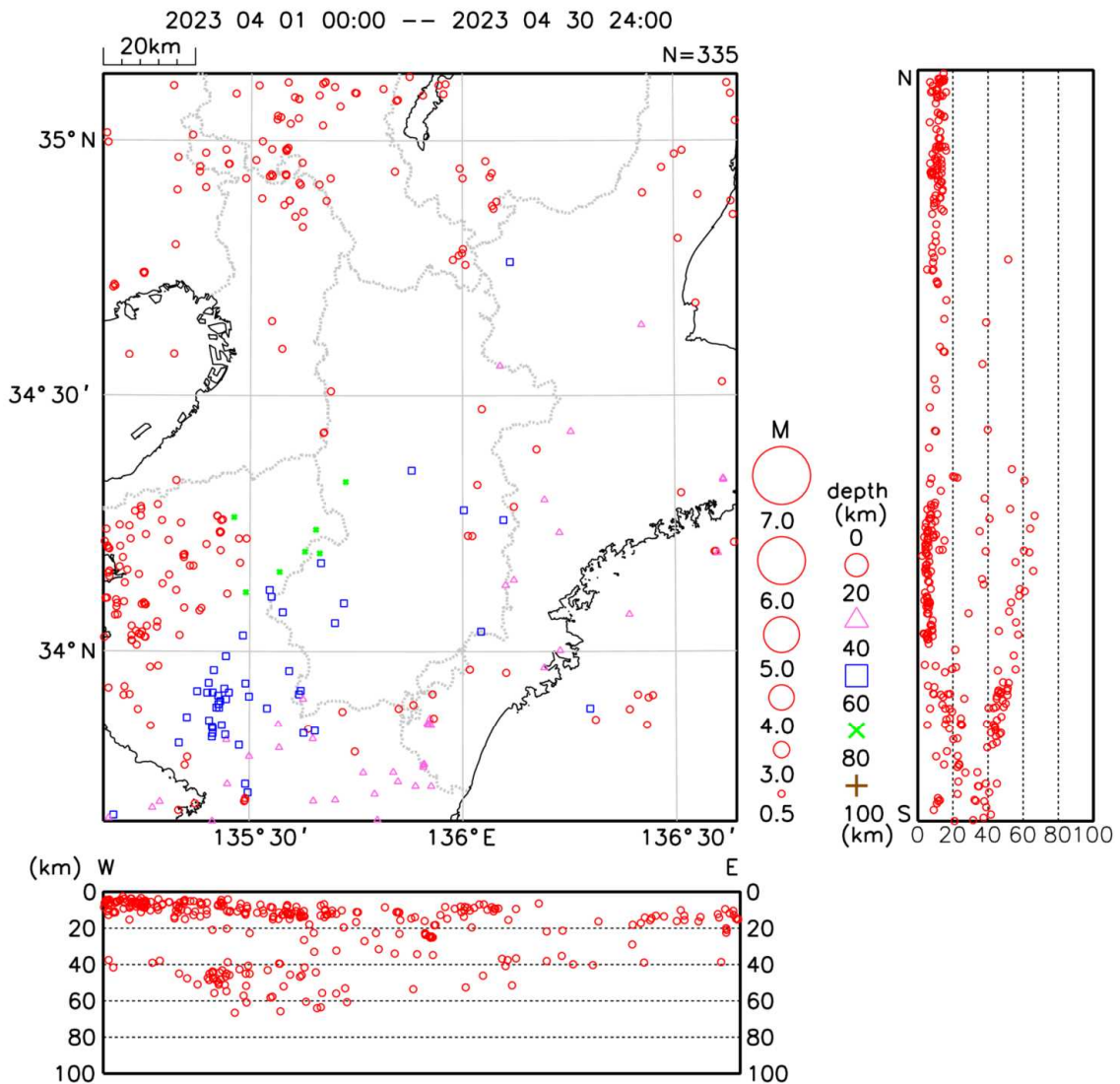
奈良地方気象台

2023年4月

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

地図範囲内に分布している震央の南北方向の断面図(右上)と、東西方向の断面図(左下)で、地震の垂直分布を表しています。これにより、マグニチュード(M)の大きさと深さによる地震発生状況が把握しやすくなります。



【奈良県地震概況】

奈良県内で4月に震度1以上を観測した地震はありませんでした。

【地震一口メモ】

～南海トラフ地震と南海トラフ地震臨時情報について～

南海トラフ地震は、駿河湾から日向灘沖にある南海トラフで起こる巨大地震で、約 100 年から 150 年の間隔で繰り返し発生する特徴をもっています。前回の昭和の南海地震（1946 年）の発生から 75 年以上が経過し次の南海トラフ地震発生の切迫性が高まってきており、国内の地震活動などを評価している地震調査研究推進本部ではマグニチュード（以下、「M」と言う。）8 から 9 クラスの巨大地震が今後 30 年以内に 70% から 80% の確率で発生すると評価しています。

また、この南海トラフ地震は地震の発生の仕方にも特徴があり、宝永地震の時は駿河湾から四国沖の広い領域で同時に地震が発生したり、安政の東海地震・南海地震や昭和の東南海地震・南海地震の時は M8 クラスの巨大地震が隣接する領域で時間差をおいて発生したりと南海トラフ地震は多様性のある地震とされています。

想定されている最大規模の南海トラフ地震が発生すれば、県内では震度 6 強の激しい揺れや液状化により甚大な被害が予想されています。

このため、気象庁では 24 時間 365 日、南海トラフ地震を監視しており、南海トラフ沿いで M6.8 以上の地震が発生した場合や通常とは異なる「ゆっくりすべり」が発生している可能性があるとして判断した場合は、「調査中」のキーワードを付加した南海トラフ地震臨時情報を発表します。

その後、「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」が開催され、巨大地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高いと評価した場合は、評価の内容によって「巨大地震警戒」や「巨大地震注意」のキーワードを付加した南海トラフ地震臨時情報を改めて発表します。

県内にお住まいで、「巨大地震警戒」のキーワードが付加された南海トラフ地震臨時情報を見聞きした場合、1 週間は次の巨大地震の発生に警戒しつつ日頃からの地震への備えを再確認し政府や自治体からの呼びかけに応じた行動をとってください。また、次の巨大地震によって家屋の倒壊や土砂崩れが発生する恐れのある場所にお住まいの方は自治体が開く避難所へ自主的に避難することも考えてください。その後、更に 1 週間は次の巨大地震の発生に注意しつつ引き続き日頃からの地震の備えを再確認するようにしてください。「巨大地震注意」のキーワードが付加された場合は、1 週間は次の巨大地震の発生に注意しつつ日頃からの地震の備えを再確認するようにしてください。

ただし、今の科学技術では地震の発生を予知することはできません。この南海トラフ地震臨時情報が発表されたとしても必ず次の巨大地震が発生するわけではなく、「これまで以上に発生する可能性が高まっている」ことを伝える情報です。

この南海トラフ地震臨時情報の発表にかかわらず日頃からの地震への備えを定期的に再確認するようにしてください。

日頃からの地震への備え

- ・家具などの固定
- ・備蓄品、非常持ち出し品の準備
- ・避難場所と避難経路の確認
- ・家族などとの連絡手段の確認
- ・物が落ちてこない、倒れてこない安全スペースの確保

本紙は奈良地方気象台のホームページでも過去数年間程度分掲載しています。
URL : <https://www.data.jma.go.jp/nara/jisin/jisin.htm>

